



あすもりサポーター通信



富良野自然塾で、植樹と自然を体験しよう



今年で7年目を迎える植樹と体感型環境教育の体験会は、9月21日(土)にCCC富良野自然塾で開催されました。初参加の方が多かったので、バスの中では『富良野再発見クイズ』をしました。たとえば、富良野という地名の由来。『富良野』はアイヌの言葉で「フラヌーイ」・『臭くにおう泥土』を意味し、活火山の十勝岳から流れてくる川の水が硫黄臭いこと、泥炭地であったことからきているそうです。

CCC富良野自然塾ではまず、倉本聡氏のお話を伺いました。一番記憶に残っているのは、木の根っこを見せていただいた時です。倉本さんは「何かに似ていませんか?」と参加者に問いかけました。「そうです。川の流れのように見えますね。地面から樹高への水の通り道なのです」。その後の環境プログラムでも水の大切さを話されていました。苗木を植え、樹木を育てる森づくり活動も、「水」を生み出す作業の一つだと思いました。



倉本聡氏を囲んで



田中さんの熱弁に皆が引き込まれました

昼食後は『環境教育プログラム』。「裸足の道」・「石の地球」・「地球の道」・「ゴルフ場を森に還す植樹」と進んでいきます。今年のインストラクターはCCC富良野自然塾の田中由紀子さん。地球の46億年の歴史を460mに縮小して作られたコースでは、100年が0.1ミリで、たった0.2ミリで地球が劇的な変化を起こしていることがわかります。本当に地球は「奇跡の星」と実感しました。人類の責任などに「気づく」機会をいただきました。



カミネッコン方式で植樹しました

植樹はダンボール製のポット「カミネッコン」に入った3つの樹種を寄せ植えして、丈夫な木を残していく手法で行いました。昨年植樹した場所では3つの樹種が競い合い、助け合って、着実に育っていました。



「秋の育樹会」活動報告



5周年記念「モリ・イクテラス」のテーブルで記念写真

10月5日(土)、当別道民の森・神居尻地区の「Fの森」と「Aゾーン」で、育樹作業を行いました。澄みきった秋晴れの中、コープ未来の森づくり基金の設立5周年を記念して設置した「モリ・イクテラス」の除幕式を行った後、9名のあすもりサポーターのみなさんと、「Fの森」で育樹作業をしました。今年6月に植樹したマカバ(ウダイカンバ)の苗木が小さく、雑草にまぎれてわかりにくかったので、苗木の横に竹串をさし、目印のリボンをつけました。繁茂した雑草の草刈りも同時に行い、約1時間ほどで植樹地がすっきりしました。

午後は「Aゾーン」に移動し、雪折れ対策のポールと苗木を固定する作業と、折れた枝を割り箸と紙テープで補強する作業を行いました。

昨年は雪折れ対策のポールと苗木を、麻ひもで緩めに3ヶ所ほど固定しましたが、春の雪解け時に「雪を地面に引っ張る力」が働き、苗木が提灯折れの状態になりました。そこで、今年は苗木をポールにしっかりと沿わせて、間隔を短めに、紙テープで固定しました。少人数での作業でしたが、みなさんが黙々と作業を進めたおかげで、予定通りに終了することができました。今年、提灯折れになってしまった苗木は残念でしたが、ポールなしの苗木より成長は良いようです。試行錯誤を重ねつつ、今冬は折れずに春を迎えられたらと思います。



Aゾーンでの育樹作業

とかちの森づくり視察と道産材活用を学ぶ

& コープのメガソーラー発電所見学

コプ未来の森づくり基金では森づくりの調査研究・交流を目的に、森林の利活用を行っている団体・企業や助成団体を毎年訪問しています。今年も、2012年度高額助成団体でブナの植樹を行った「川田工業株式会社・NPO法人トカプチの森 森づくり実行委員会(帯広市)」と、カラマツなどの道産材を活用した住宅づくりを進めている「とかちの木で家をつくる会(幕別町)」を訪問しました。

初日は川田工業本社で森づくりに取り組んだ経緯と活動内容の説明を聞いた後、ブナの植樹地がある「じゅんの森」などを視察しました。森の維持管理を行っているメンバーから、森が十勝圏の親子や小学生の環境教育の場として親しまれ、高齢者の生きがいの場となっていると聞き、森と地域のつながりの大切さを実感しました。



川田工業「じゅんの森」視察



「とかちの木で家をつくる会」の取り組みを視察



「コプ・市民ソーラー十勝」

2日目は「とかちの木で家をつくる会」の製材工場とモデルハウスを見学しました。同会は道産材の製材から住宅の設計・施工・販売までを十勝エリアの会員企業で行っています。「道産材は輸入材に比べてかなり割高になるとの誤解が根強い。地産地消、雇用創出をめざしているのに、肝心の地元への普及が進まない」との説明に、基金の参加者から「普及に協力したい」との声が寄せられるなど、活発な意見交換が行われました。最後に「コプ・市民ソーラー十勝」に立ち寄り、太陽光から生み出される電力の仕組みを学びました。

あすもり基金 助成団体紹介

(2010年度 小額助成)

とかちサンタランドツリーの会

活動拠点/広尾町

広尾町の林業団体・企業が中心となって「クリスマスに本物の木を飾る習慣を広めよう」と2007年に設立しました。毎年9月から12月まで、十勝産の種子から育てたエゾマツやモミなどの5年生から7年生の木を「リアル・クリスマスツリー」として販売。ツリーをきっかけに、木製品を暮らしに取り入れる人が増え、循環型の森づくりが広まることをめざしています。2010年からは「CO₂を吸収して地球温暖化を防ぐ、森林の役割に気付いてもらおう」と、ツリーを送り返してもらい、「二酸化炭素吸収証明書」を贈呈するとともに、町内の大丸山森林公園に植樹する活動を始めました。毎年6月の植樹会では戻ってきたツリーを植えた後、十勝産のアカエゾマツの種が入ったエコ風船を森に向かって飛ばします。今年で3年目、ツリーを送り返した人が植樹会に参加したり、ツリーの成長を見たいと町を訪れる人も増えてきたそうです。



ホームページ <http://www.tokachisantalandtree.jp/>

あすもり事務局から

コプ未来の森づくり基金では2009年から、北海道で活動する森づくり団体を応援する助成制度を設けています。これまで植樹や除間伐など森林の維持管理から、木製玩具や木質バイオマスなどの木の活用まで、基金がめざす「循環型の森林づくり」につながる活動に取り組む団体への資金援助を行ってきました。

2014年度助成の申込期間は9/30で終了。たくさんの方から申込が届きました。これから12月下旬の助成決定に向けて、審査が始まります。

来年1月25日(土)の午後には「北海道の森づくり交流会」を札幌、旭川、函館、苫小牧、北見、釧路、帯広で同時開催します。森づくりに関心のある方はどなたでも参加できます。くわしくは次号でご案内しますので、ぜひ予定をあけておいてください。

あすもりのドングリマークを真ん中に入れたQRコードが出来ました。



携帯電話などのバーコードリーダーで撮影すると、あすもりのFacebookページを開くことができます。

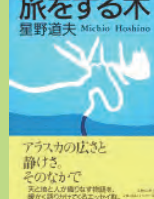
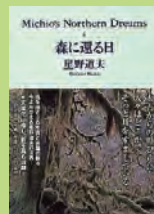
<https://www.facebook.com/coop.asumori>

森の本

毎号1冊、森づくりに関するおすすめの本を紹介します。

「森に還る日」 「旅をする木」

発行元: PHP研究所
著者: 星野 道夫
発行元: 文藝春秋



星野道夫(ほしのみちお)さんはアラスカの大自然や野生動物のすばらしい写真で有名ですが、森の循環をテーマにした写真やエッセイも遺しています。

「森に還る日」はアラスカの原生林とそこに息づく生き物たちの写真集で、彼のメッセージが添えられています。星野さんの宇宙観そのものを感じます。

「旅をする木」は鳥が運ぶ種子から始まる一本の木の長い旅をテーマにしたエッセイ集で、文春文庫から文庫版も出ています。北の大自然の厳しさよりも、悠久の時の流れややさしさ、地球そのものの存在を再認識させてくれます。